

II. 病害虫ミニ情報

サツマイモのナカジロシタバの発生生態と防除対策について

ナカジロシタバは、多発生するとサツマイモの葉の大部分を食害してしまいます。早期から発生するとサツマイモの収量や品質の低下につながることもあるので注意が必要です。また、サツマイモの葉を食い尽くした後、餌を求めて移動する際に民家等に侵入し、不快害虫として問題になることもあります。

本年は、7月下旬現在、平年よりやや多い発生となっています。ナカジロシタバの発生生態や防除対策について下記に示しますので、今後の対策の参考にして下さい。

1. 発生生態と被害

ナカジロシタバは年3回発生し、9月上旬頃から発生する第三世代幼虫の発生量が最も多く、被害も9月下旬～10月にかけて多くなります(図1)。成虫は夜間に飛び回り、葉の裏に卵を産み付けます。孵化した若齢幼虫は、つる先の若い葉を好んで食害します。中～老齢幼虫になると、昼間は茎葉の陰などにひそみ、夜間に活動して多量の葉を食害するようになります。成熟した幼虫は土中に潜ってマユを作り、その中で蛹になります。

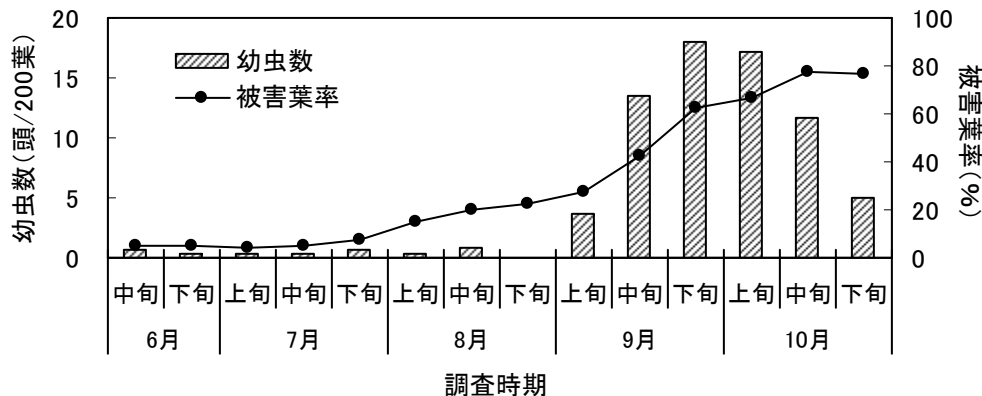


図1 サツマイモにおけるナカジロシタバ幼虫数と食葉性害虫の被害率の推移
(農業総合センター農業研究所県予察圃(水戸市)の過去10年間の平均値)

注):食葉性害虫の主要種はナカジロシタバで、食害葉も本種によるものが大部分であると考えられる。

2. 防除対策

8月下旬～9月中旬に圃場をよく観察し、第三世代幼虫の若齢～中齢の時期(丸く穴の開いた葉が散見される時期～葉面積の25%程度を食害された葉が目立つ時期)に、薬剤散布を行います。その際、幼虫が生息する葉裏まで薬剤がかかるよう丁寧に散布して下さい。

薬剤に対する抵抗性は現在のところ認められていないので、表1に示す薬剤を適期に散布することで、十分な効果が期待できます。なお、IGR剤(ノーモルト乳剤、マッチ乳剤)は、他系統薬剤に比べ殺虫効果の発現に時間がかかりますので、早めに散布するようにして下さい。

表1 サツマイモのナカジロシタバに登録のある主な薬剤(平成22年7月21日現在)

| 系統名 | 薬剤名 | 希釈倍数(倍) | 収穫前日数- 剤の使用回数 | 有効成分- 有効成分の総使用回数 |
|------------|------------|-------------|------------------|---------------------|
| 有機リン系剤 | ディプレックス乳剤 | 700~1,000 | 14-4 | DEP-4 |
| カーバメート系剤 | オリオン水和剤40 | 1,000 | 前日-5 | アラニカルブ-5 |
| | ラービフロアブル | 750~1,000 | 3-3 | チオジカルブ-3 |
| 合成ピレスロイド系剤 | トレボン乳剤 | 1,000 | 7-3 | エトフェンプロックス-3 |
| IGR剤 | ノーモルト乳剤 | 1,000 | 7-2 | テフルベンズロン-2 |
| | マッチ乳剤 | 2,000~3,000 | 14-2 | ルフェヌロン-2 |
| その他 | トルネードフロアブル | 2,000 | 7-2 | インドキサカルブMP-2 |

※農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用方法、注意事項等を確認のうえ使用して下さい。また、周辺作物等へ飛散(ドリフト)しないよう十分注意して散布して下さい。